

## 平成25年度研究成果中間報告書《平成25・26年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	33	都道府県・指定都市名	岡山県
ふりがな 学校名 (児童生徒数)	おかやまけんりつはやしのこうとうがっこう 岡山県立林野高等学校 (327人)		

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：岡山県美作市三倉田 58-1

電話番号：0868-72-0030

研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：<http://www.hayasino.okayama-c.ed.jp/>

### 【研究成果のポイント】

○研究課題番号：5 (4) ESD

○研究のキーワード：連携性、多様性、評価方法

○研究成果のポイント：持続可能な社会の形成者として必要な「6つの構成概念」と「7つの能力・態度」を身に付けさせるための、ESDの視点に立った「総合的な学習の時間」を中心とした学校全体での取組についての実践研究

### 【研究の目的、研究内容】

#### (1) 研究主題

地域社会の未来を予測し課題を解決する態度と能力の向上  
～森と海をつなぐ吉井川流域をフィールドとして～

#### (2) 研究主題設定の理由

本校は、中山間地に所在する普通科高校として、総合的な学習の時間を活用して「地域の課題を考える」を大テーマに、学年を超えた縦割りグループによる課題解決学習を行い、その学習を通じて、課題を多面的、総合的に考える力を育て、他者とのつながりを尊重しながらコミュニケーションを行う態度の向上を目指してきた。しかし、地域の課題を多角的に深く広く考察する下地となる経験は十分とは言えず、さらに未来を予測し、課題解決に向かう自律的な態度と能力を向上させるために、その多様性を踏まえながら言語化していくことにまで至っていない。そこで、本研究では、現在の研究対象である美作市から、広く岡山県東部を流れる吉井川流域までフィールドを拡大し、多様性と連携性に目を向けることとしてこの研究主題を設定した。

#### (3) 研究体制

**MDP(My Dream Project)**…総合的な学習の時間(3学年縦割り・分野別の10グループによって構成)  
国際／コンピュータ／心理／福祉／ものづくり／文化・歴史／人体／社会／教育／自然



**MDP委員会**…各グループ顧問の代表

指導計画の検討とグループ顧問での共有、グループ独自計画の作成と実施。



**MDPコア委員会**…研究主任・主幹教諭(地域連携担当)・MDP主任・ESD主任・教務主任・教務課MDP担当・グループ代表1名  
研究の全体計画立案、外部連携のとりまとめ。



**むかし倉敷ふれあい祭り生徒実行委員会**

生徒を公募。地域連携行事の企画運営。



**「ユネスコスクール高校生フォーラム」チーム**

希望する生徒。2014世界大会準備委員会参加。

#### (4) 1年間の主な取組の経過

平成25年度	4/3	岡山理科大学岡本弥彦教授・教職員 ESD 研修
	4/23	大阪府立大学伊井直比呂准教授・生徒 ESD 研修
	6/4	「デアイ場」…実体験を通じた地域の課題の発見
	7/20～21	矢掛高校白石島 ESD キャンプ 参加
	7/22～23	地域／他校連携企画「国際交流 English Camp」実施
	7/29	地域／他校種連携企画「小中学生国際交流 International Camp」実施
	8/19	国立歴史民俗博物館小池淳一教授・生徒対象特別講義「民俗学入門」
	9/28	「むかし倉敷ふれあい祭り」…地域連携イベント開催
	11/2～4	アジア太平洋ユネスコスクール高校生フォーラム参加
	12/17	MDP 実践報告会
	12/21	福井大学 Round Table Winter Session 参加
	1/11	ユネスコスクール岡山プレフォーラム参加
	3/18	「ESD についての理解を深める研修会」開催(地域にも公開)

#### (5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

- ・連携性…English Camp 及び International Camp ・「むかし倉敷ふれあい祭り」の企画段階から、「美作市国際交流を進める会」，地域おこし協力隊、地域の町内会と連携して活動した。また、他の高校，小中学校とも交流しながら活動した。
- ・多様性…吉井川流域から那岐山麓，瀬戸内海にかけてフィールドワークを行い，地域の諸問題とその解決策について，共通点や差違点について考察した。
- ・評価方法…6つの構成概念については言語化し，7つの能力・態度についてはループリックを作成することによって評価する方法を考えている。

### 【研究成果とその意義等】

#### (1) 研究成果

- ☆生徒の変容…「経験を言語化すること」により，「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的，総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「批判的に考える力」「つながりを尊重する態度」等が身に付いてきた。さらにユネスコスクール活動における国境を越えた高校生との交流を通じて，各自の価値観が相対化され，国際理解が深化した。
- ☆地域社会の変容…「高校生が地域のためにここまでしてくれるなら」（町内会長）。持続可能な地域社会の実現に向けた動きが見られるようになった。

#### (2) 研究成果の意義等

- ①「地域の教育力活用」実践事例の提示…地域での学びが ESD の目標である「6つの構成概念」への気付きと「7つの能力・態度」をバランスよく育てることを示せた。
- ②中山間地域における高等学校の役割モデルの提供…高校生の活動が地域社会を活性化し，高校生が持続可能な社会の実現に貢献できるという手応えをつかむことができた。
- ③ESD の評価方法の開発…思考・発信型の学力を評価していく際の適切なポイント設定について，ループリックと言語化による評価の中で有効性を検証することができた。

#### (3) 研究2年目へ向けての課題と改善

- ①ESD の視点の明確化…教科等，教育活動全体に位置付ける〈例〉ESD カレンダー作成
- ②地域連携の継続性の確保…地域おこし協力隊や行政，NPO 団体との協力体制強化  
〈例〉学校設定教科「みまさか学」カリキュラム設計における地域おこし協力隊との協働
- ③評価方法の確立…3年間を通して自身の成長を確認できる評価方法の研究  
各時間ごとの自己評価，言語化する際のフォーマットの確定